

追悼文（尾形）

今春から企業法務部員として勤務することになった私は、新入社員ということもあり、契約業務に関する書籍を手元に置くことにしている。その中でも最も近くに置くのが、結城さんの本である。法律辞書では捉えがたい、実務上の用語や意味がわかりやすく記載され、私には大変ありがたい。またそれだけでなく、結城さんの姿が思い出され、難しく感じる問題でも楽しんで取り組もうと思えるのである。

結城さんの学問への強いご関心は、いつも印象的だった。私が修士課程に進んだ時には、結城さんは既に博士号を取得されていたが、毎週6限のゼミに出席され、報告される様々なテーマについて発言をされていた。ゼミ後の帰り道をご一緒させて頂いた際には、「今日のは難しい問題だねえ」と言いながらも、どこか嬉しそうにしていた表情を今も覚えている。

また日頃から、修士課程の学生にも親切に接して下さった。一人ひとりの学生の顔や研究内容も、よく覚えてくださっていたように思う。6月12日に開催されたRCLIPのセミナーに参加した際には、在学中全く目立たない存在であった私にも、結城さんは話しかけてくださり、お食事の約束までしてくださっていた。「会社に結城さんの本がありましたよ」「業務中こんなことで悩んでいます」、そのようなお話をしようかと再会を楽しみにしていた矢先、このような悲しい知らせが届いてしまった。学術面でも実務面でも、もう直接ご指導をいただけないのかと思うと、残念でならない。それでも私は、これまで執筆されたご著書を通して、これからもご指導いただくのだろうと思う。

今まで、本当にありがとうございました。これからも、結城さんが残して下さったものを大切にしていきます。どうか安らかに眠りください。